

平成二十九年度入学試験問題（前期日程）

小論文

法学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

(渡辺靖『「文化」を捉え直す——カルチュラル・セキュリティの発想』岩波書店、二〇一五年、七〇〜八一ページ、抜粋・一部改変)

問一 本文の論旨を四〇〇字以内でまとめなさい。

問二 「文化」をめぐる筆者の議論をふまえつつ、「文化の果たす役割」について、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

平成二十九年入学試験問題（前期日程）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は文化の捉え方において、文化の多様性だけでなく文化の正負の側面についても論じている。政治において「伝統文化」が抑圧や搾取を正当化する理由とされることや、異なる人種や宗教であっても共生の歴史があったこと、および文化相對主義のはらむ問題性等についての文章を正確に読み取り、要点を的確に把握できているかを問うものである。問題文から文化の持つ正負の役割に関する筆者の主張をくみ取った上で、本専攻の研究分野である歴史・民俗・文学・言語の諸分野との関わりにおいて、受験生の理解力、および独自の論理構成力、言語表現力などをみることにある。